



平成二十六年・二〇一四年に思う

群馬県教育委員会

教育長 吉野 勉

平成二十六年・二〇一四年は、群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様にも、本県にとっても、いくつかの点で節目の年となることと思います。

まず最初に挙げられるのが、ユネスコ世界文化遺産です。

上毛かるたでも「日本で最初の富岡製糸」とうたわれている富岡市の「富岡製糸場」と、下仁田町の「荒船風穴」、藤岡市の「高山社跡」、そして伊勢崎市の「田島弥平旧宅」から構成される世界遺産候補「富岡製糸場と絹産業遺産群」が、昨年九月に行われた「国際記念物遺跡会議（ICOMOS）」の現地調査を経て、本年六月にカタールで開催される「ユネスコ世界遺産委員会」で審議される予定です。富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録に向けては、貴会の「世界遺産登録推進委員会」によるスタディーツアーをはじめ、各ユネスコ協会による地域における様々な啓発活動も、大きな力となつていふことと思ひます。必ずや正式に世界文化遺産として登録されるものご期待しております。

次に、二〇〇五年から始まつた「国連・持続可能な開発のための教育（ESD）」の「一〇年」も、いよいよ今年が最終年、締めくくりに迎えます。

本年十一月には、名古屋市中「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関するユネスコ世界会議」が開催され、国連ESDの一〇年の総括が行われる予定です。ESDの目指すところは、一人ひとりが自然環境や資源の有限性、地域の将来性など、様々な分野とのつながりを意識して生きていくことであり、そのために欠かせないのが子どもたちへの教育であると言えます。

そして、国連ESDの一〇年の最終年であり、富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に正式登録されているであろう本年の十月に、「関東ブロック・ユネスコ活動研究会」が高崎市で開催されます。このことは、主催者である群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様には、改めて申し上げるまでもないこととは存じますが、このようなタイミングで、群馬県で関東ブロック研究会を開催することに、不思議な巡り合わせを感じずにはいられません。県外からも大勢いらつしやるお客様には、ぜひとも、この機会に群馬県の至宝である富岡製糸場と絹産業遺産群を御覧いただきたいと思ひます。

また、実行委員の皆様をはじめ、関係者の皆様には、関東ブロック研究会の開催に向けて、様々な準備にお忙しい毎日

を過ごされていることと思ひます。皆様方の御尽力が実り、本年の関東ブロック・ユネスコ活動研究会が御盛会となりますよう、また、全体会や分科会で内容の充実した活発な御議論が交わされましよう、心よりお祈り申し上げます。

平成二十六年・二〇一四年は、また、群馬県教育委員会にとつても、大きな節目の年になります。

本県では、これまで、平成二十一年三月に策定した「群馬県教育振興基本計画」に沿つて、様々な教育施策を推進してまいりました。この計画が平成二十五年で最終年度となることから、この度、教育分野において引き続き取り組むべき課題や、この間の社会情勢の変化により生じた新たな課題等に対応していくため、平成二十六年から平成三十年までの五年間を計画期間とする「第二期群馬県教育振興基本計画」を策定しております。

現在作業中ではありますが、今後五年間の基本目標は、群馬県の教育が目指す十年後を見通して策定した第一期計画の目標を継続し、「たくましく生きる力をはぐくむ」「自ら学び、自ら考える力を」とし、「地域社会へ積極的に参画し、共に未来を切り拓くための生涯にわたる学び」の実現を目指してまいりたいと思ひえております。

具体的には、生涯にわたる学びを通じて、一人ひとりが個性や能力を生かし社会の一員として時代を切り拓いていくことができる力の育成を目指したいと思ひます。また、学校教育では、確かな学力

の育成、豊かな人間性の育成、健やかな体の育成を図りたいと思ひます。そして、家庭や地域における教育では、学校・家庭・地域が連携し、子育て支援や社会教育の一層の充実により、家庭や地域の教育力の向上を図るとともに、個人が直面する課題や社会の多様な課題に対応した生涯にわたる学びを推進したいと思ひます。

第二期群馬県教育振興基本計画は、「七つの基本施策」の下に「十七の取組の柱」があり、さらにその下に「四十の取組」があるという階層的な施策体系を考へております。皆様方とゆかりの深い国際理解教育を例にすると、「時代を切り拓く力の育成」という基本施策の下、「国際的視点に立ち、自らの考えを発信できる力を育成する」という取組の柱があり、その下に「国際理解教育の充実」という取組があるわけです。

貴会の皆様は、「国際理解バス」や「英語キャンプ」など様々な事業を通じて、子どもたちの国際感覚の育成に真摯に取り組んでいただいておりますことに重ねて感謝申し上げますとともに、群馬県及び県教育委員会の施策に今後とも御理解と御支援を賜りますことをお願い申し上げます。また、末筆ではございますが、貴会ますますの御発展と会員の皆様の御健勝を心より祈念申し上げます。

